

我が社の事故防止

を備えたデ

（和）
なが
全社

中山商運

中山商運（中山豊社長、三重県松阪市）は、運転適性検査を事故防止に役立てている。自動車事故対策機構（NASVA）の三重支所（石川也義所長）の実施する適性検査に加え、三重県交通共済協同組合（小林俊二理事長）が組合員に貸し出す可搬型適性検査器も活用している。

運転適性検査を活用



一全員が参加。社員自
企画する中、渡辺社長もで

渡辺氏は「安全文化

協力会社のドライバーにも受診させた。「協力会社には、この数年間、適性検査を受けていないドライバーがいた。良い機会になった」

（中山社長）

中山社長は「トラックの運転には性格が表れる」と強調する。「検査結果が100%合っているとは思わないが、自分の長所と短所を客観的に理解し、安全運転の参考にして欲しい。デジタルタコグラフのデータと照らし合わせながら、個々の労働時間管理にも役立っている」

同僚の適性検査を笑顔で見守る

特に、ベテラン社員については、検査結果を見ながら、視力の衰えが無いかに注意しているという。「老眼の進行具合が検査に影響するケースもある。私も同じだが、年を取ってくると、朝夕でモノの見え方が違ってくる。何か気付いたことがあるれば、声を掛けるようにしている」

更に、「これからトラック業界は大きく変わっていく。コンプライアンス（法令順守）をおろそかにする会社は生き残れない。運転や荷役作業の技術だけではなく、安全への向学心を持ったドライバーを育てたい」と話す。

（星野誠）